

第 31 回岩手県食の安全安心委員会議事録

1 開催日時及び場所

令和 5 年 6 月 12 日（月）10 時 40 分から 11 時 50 分 盛岡市勤労福祉会館 5 階 大ホール

2 出席者の氏名

(1) 委員

磯田朋子委員、小山田緑委員、菊地セツ子委員、有住百香里委員、山口真樹委員、後藤和彦委員、佐々木安彦委員、佐藤圭委員、高橋輝委員、梁川真一委員、及川亜希子委員、佐藤至委員、村元美代委員

(2) 関係室課等

堀川勇復興危機管理室主任、千葉哲也防災課主査、内藤皓平学事振興課主事、川又康明環境保全課主査、吉田幸司資源循環推進課主査、佐々木透若者女性協働同推進室主査、小野償子健康国保課主任主査、梁田尚美健康国保課主任主査、佐賀唯衣子ども子育て支援室技師、清水稔子産業経済交流課主査、吉村麻実子農林水産企画室主査、林尻雄大流通課主任主査、渡辺琴乃流通課主事、高橋良学農業振興課特命課長（鳥獣対策）、内田愛美農業普及技術課主査農業普及員、阿部結農業普及技術課技師、佐藤裕夫畜産課主査、阿部瑛水産振興課技師、粒來幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長、菅原史子保健体育課指導主事、佐藤直人環境保健研究センター保健科学部長、千葉和久環境保健研究センター衛生科学部長、稲川多佳子県民生活センター主任主査

(3) 事務局

福田直環境生活部長、佐藤義房県民くらしの安全課総括課長、千葉正食の安全安心課長、遠藤裕美主任主査、白沢明美主査、小野寺秀宣主査、晴山久美子主査、鈴木裕子主任

3 議事の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

福田直環境生活部長があいさつを述べた。

(3) 議事

ア 食の安全安心委員会副委員長の選出について

副委員長に村元委員が選出された。

イ 令和 4 年度における食の安全安心の確保のための施策評価について

千葉正食の安全安心課長から資料 1-1 及び資料 1-2 により説明があった。

【質問・意見等】

- 後藤和彦委員 資料 1-2、3 ページ、生乳検査における体細胞数 50 万/ml 未満の農家割合についてであるが、今年度から岩手県畜産協会による検査ではなくなり、関東の方

で検査するようになったと聞いているが、これからの検査は継続されるといいう認識でよいか。

- **佐藤裕夫畜産課主査** 検査機関は変更になるが、検査自体は継続となると聞いており、引き続き食の安全安心は担保されると思っている。
 - **磯田朋子委員** 3ページⅡの6、学校給食における県産食材の利用割合についてだが、県内の学校をランダムに5施設抽出とあるが、何施設中の5施設なのか教えてほしい。5施設は少ないイメージがあり、5施設だけで代表させて良いのか、聞かせてほしい。
 - **粒來幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長** この調査は、文科省の調査を受けて実施している。文科省の基準に沿って抽出して調査しており、そのために施設数が少ないものとなっている。
 - **佐藤至委員** 学校としては相当な数があるわけですよ。母数としては。
 - **粒來幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長** 学校地方給食と給食センター方式とあるが、全体の施設数は資料を持ち合わせていないので不明であるが、令和4年においては給食センターも含め7施設について抽出して調査している。
 - **佐藤至委員** 4ページ、生食用カキの検査について、検出された場合は自主規制を行ったとある。実際には何件くらい出荷規制があったのか。
 - **阿部瑛水産振興課技師** ノロウイルスについては、県漁連が主導で検査を行っており、各浜単位で出荷期間中は毎週検査している。
 - **佐々木安彦委員** データがあるので、後で件数を提供する。
- ※事務局からの後日回答
- 令和4年度は、359件検査した上で、ノロウイルスの検出件数は0件であり、出荷規制はなかった。
- **佐藤至委員長** コロナの影響で講習会の指標は未達成になっているが、他の指標は達成ということで、この施策は概ね良好に執行できているということで良いか。
(委員から異議なし)

ウ 令和4年度における取組実績及び令和5年度計画について

(ア) 岩手県食の安全安心推進計画

千葉正食の安全安心課長から資料1-3により説明があった。また、県以外の主体の取組について、資料1-4により、小山田緑委員、後藤和彦委員、佐藤圭委員、高橋輝委員、及川亜希子委員から説明があった。

【質問・意見等】

- **小山田緑委員** 資料1-3、3ページ、ナンバー17、県民からの相談とあるが、これは消費者からの相談か、事業者からの相談か。どんなことで相談を受けているか、お聞きしたい。
- **千葉正食の安全安心課長** 消費者からも事業者からも質問があり、また東北農政局から表示の誤りについて情報提供があった。中では、原産地表示等に誤りがある

との情報提供があった。

- **小山田緑委員** 消費者サイドからも相談があったか。
- **千葉正食の安全安心課長** 消費者が購入する際に、販売している商品について、「表示が間違っているのではないか」、「必要な表示がなされていないのではないか」との質問を受けることがある。
- **佐藤至委員** 資料1-3、2ページ、ナンバー59。野生鳥獣肉の処理を行う施設への立入指導を行ったとのことだが、これは定期的な立入指導か、それとも不都合、不具合があったために行ったものか。
- **千葉正食の安全安心課長** 県の食品監視指導計画に基づき、定期的に立入指導しているもの。

(イ) 岩手県食育推進計画

千葉正食の安全安心課長から資料2-1及び資料2-2により指標の状況について説明があった。

【質問・意見等】

- **及川亜希子委員** 1ページ目、「肥満傾向のある子どもの割合」の欄にある「60プラスプロジェクト」とはどのような事業か、教えてほしい。
- **粒来幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長** 「60プラスプロジェクト」とは、「よりよい運動習慣」、「望ましい食習慣」、「規則正しい生活習慣」の3つの習慣を意識してもらうために、小学校に全学校にチャレンジカードを配付し、それぞれ子どもたちが目標を立て取り組み、家庭でもチェックしてもらうことで、習慣化を目指している。また、幼稚園や中学校にも取り組んでいただきたいということで依頼している。この3つの習慣を関連付けて、健康な生活を過ごせるよう習慣化を図るもの。
- **有住百香里委員** 奥州市の認定こども園で園長をしているが、1の「朝食を毎日食べる子どもの割合」が気になった。食習慣の形成は小学4年生でいきなり形成されるものではなく、幼児からの食習慣が大事だと思うが、なぜ4年生からの調査なのか。それから、結果の数値が良いと思った。園の子どもに聞くと、もっと食べていない子がいる。朝7時半と早くから登園するが、午前中からおなかがすいて、遊ぶところではない子が複数いる。この調査はどこ地域の調査だったのか。奥州市内を転勤してきたが、複数の園で朝ごはんを食べない子が増えてきている。食べたとしても、チョコパン、ジュース、プリン、チョコひとかけなどの返答が多く、主食・副菜・汁物を食べる子がほんの一握り。意識のある保護者が少なく、おやつみたいなものを食べている。朝ごはんの内容が大事だと思うが、調査について詳しく教えてほしい。
- **小野償子健康国保課主任主査** 学年は小学校4年生、中学校3年生、高校3年生が掲載されているが、県ではそれ以外の学年についても調査をしている。小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生と、概ね2～3年を空けて調査している。調査

対象は全県で実施しており、昨年度は全学年で19,956人を分析した。各保健所では圏域ごとのデータも把握し、その圏域の改善を図ることとしている。委員御指摘のとおり、朝食を食べるだけに意義があるものではなく、その内容が重要であると認識しているが、毎年調査をし、経過を追っていく上では、内容まで詰めた調査は難しい現状であり、内容等は各施設や各市町村で調査をするよう依頼しているところ。

続いて、千葉正食の安全安心課長から資料2-3により県の取組実績について、資料2-4により、磯田朋子委員、小山田緑委員、有住百香里委員、佐藤圭委員、高橋輝委員、村元美代委員から各所属団体での取組について説明があった。

○ **佐藤至委員** 委員から質問はありますか。

(質疑なし)

○ **佐藤至委員** 食育については、委員の皆様が様々な取り組みを行っているようですので、県だけでなく様々な面で食育の取組を進めていっていただきたいと思えます。

エ その他

千葉正食の安全安心課長から資料3により食の安全危機事案の対応について説明があった。(質疑なし)

(4) その他

○ **山口真樹委員** 昨年度より部活動の地域移行により部活動は任意参加となり、中学高校の運動量がさらに減っていく時代となっていく。文化部の子でも楽しめる体を動かすイベントがあるとよい。何もないままだと、体を動かすのは通学のみとなってしまう。以前はほぼ全員が部活動をしていた県なので、これからどうかかわっていくのか、PTAとして危惧している。また、有住委員がおっしゃったように、朝食を食べない子が多いなど感じる。朝食をお菓子で終わらせている子は多いと感じている。子どもたちへの食育もそうだが、保護者対象の食育、妊婦や出産の検診の時に合わせて指導するなど、食が大切だとわかっていただく講習があるといいのではと思う。

○ **粒來幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長** 部活については、子どもたちの数が減ってきている中、チームを維持できない、チーム編成できない、子どもたちが好きな競技ができないという課題がある。また、教職員も労働時間が長く全国的に課題となっている中で、文科省としても部活動については、まずは週休日について、学校の指導でやっていたところを地域の方々に協力いただきながら、市町村と一緒に地域で部活動をできるような環境を整備していきましょうという取組をしており、取組を進めるよう市町村とも相談しているところ。先ほど資料でも御説明したが、肥満傾向が増えており、運動不足が挙げられている。当課としても、1日60分以上「ながら運動」をしましょうという取組を、部活動だけではなく運動習慣について、引き続き取り組んでいきたいと思っている。また、文化面でも運動部活動と一緒に、地域で受け皿を作っていこうと市町村教育委員会と相談しているところ。

○ **千葉正食の安全安心課長** 朝食の重要性について、できるだけ小さいうちから、しかも保護

者に対する啓発が重要という御提案だったと思う。まさにそこが大事であり各課でも取り組んでいるところだが、例えば、県民くらしの安全課で取り組んでいる食育普及啓発キャラバンがある。これまでは、保育所等を回って園児に働きかけをしていたが、今年度からは取り組みを保護者にも広げたいと考えており、今年度からは子育て支援センターを回る計画を立てている。2歳から幼稚園に入る前の方が対象となるので、その保護者に対する啓発も広げていきたい。

- **佐藤義房県民くらしの安全課総括課長** 事務局より、委員の改選について。食の安全安心委員の皆様には、10月をもって任期末を迎え、現在の任期における委員会としては今回が最後となる。2年間御審議いただき、大変ありがとうございました。改選にあたっては、事務局から連絡を差し上げると思いますので、その際はよろしく申し上げます。

(5) 閉会